

令和7年第21週 (5月19日～5月25日)

A感染性胃腸炎の報告が横ばいです

今週は竹田地域の調査医療機関から、先週に続き5名の報告がありました。大分県全体では、定点あたり11.64と先週の13.14から減少しています。

感染性胃腸炎は、ウイルスや細菌などが原因で嘔吐や下痢などの症状がみられます。汚染された食べ物や飲み水を接種して感染するほか、感染者の便や嘔吐物からの二次感染もあります。予防するには、流水と石けんで手洗いをしっかり行うこと、生肉や生魚を扱った調理器具はしっかり洗浄・消毒すること、食材を十分に加熱することがあげられます。また、嘔吐物や便を処理するときは、使い捨てのエプロン・マスク・手袋を着用し、消毒には次亜塩素酸ナトリウムを使用してください。処理後は、しっかり手洗いを行いましょう。



百日咳の報告が増加傾向です

全国的に百日咳の報告が多くなっています。2025年の第1週から第20週 (5/12～5/18) までの全国の累計報告数は、19,274名となり、第20週だけで2,299名の報告がありました。大分県では、第20週までの累計報告数が79名となりました。県内保健所別では、大分市、東部(別府市・日田市・国東市)、北部(中津市・宇佐市・豊後高田市)の順で多く報告されています。また、年齢階級別では、10～14歳、15～19歳の小中学校、高等学校世代に多く報告されています。

百日咳は、百日咳菌に感染することで発症します。主に飛沫感染や接触感染により広がっていきます。咳が出るときは、マスクを着用するなど咳エチケットを徹底することのほか、手洗いや手指消毒など基本的な感染対策が大切です。

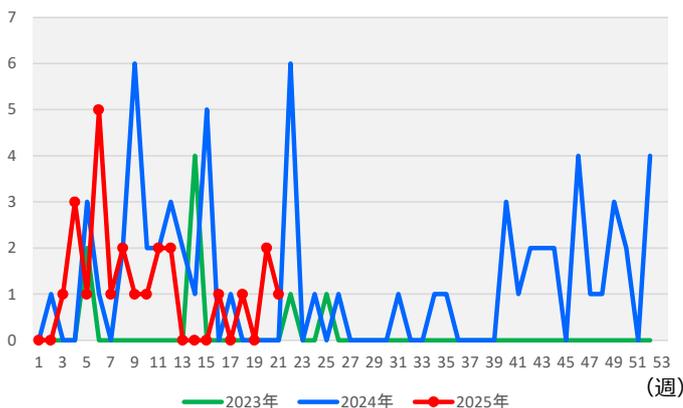
特に6か月未満の乳児が感染すると、重篤な症状を引き起こす可能性があり、注意が必要です。予防接種が重要で、生後2か月以降に計4回の定期接種である五種(四種)混合ワクチンの接種を行うことで、重症化を防げます。詳しくは、かかりつけ医またはお住まいの市町村窓口におたずねください。

(第21週)

(調査医療機関8か所の総患者数：ただし1医療機関は休診中)

疾患名 年齢	インフルエンザ			新型コロナウイルス感染症	RSウイルス感染症	咽頭結核熱(プール熱)	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘(みずぼうそう)	手足口病	伝染性紅斑(リンゴ病)	突発性発疹	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	マイコプラズマ肺炎	麻しん(全数報告)	風しん(全数報告)	百日咳(全数報告)	つつが虫病(全数報告)
	A型	B型	不明																
0歳																			
1～3歳								1				1							
4～6歳								1											
7～9歳								1											
10～14歳																			
15～19歳																			
20歳以上		1						3											
今週		1					1	5				1							
70歳以上(再掲)		1																	
先週				3			2	5											

(人) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎竹田市7医療機関総数



(人) 感染性胃腸炎竹田市7医療機関総数

